

SALAD BOWL

リニューアル号
Vol. 9

~Fresh material sent direct from the real medical scene~

東葛病院・代々木病院から 医師を目指すあなたへ

医師を目指すみなさん、こんにちは！代々木病院の医学生室の服部です(^o^)/今回は、東葛病院救急科の後藤慶太郎先生の「救急外来からゴミ屋敷へ」をお送り致します！

ER ドクターG 奮闘記 Vol.1 「救急外来からゴミ屋敷へ」

東 葛病院のERで救急をやっている後藤です。出身は兵庫県の神戸市で、阪神タイガースのファンです。

ERというのは、Emergency Roomの略称です。小児から高齢者まで、内科から外科まで、最初からERドクターが診療にあたります。なので僕は、子どもの発熱やケガ、心肺停止の重篤な患者さんまで、どんな患者さんも断らずに治療にあたっています。後藤のGをとって、ERドクターGと呼んでください。



ER にいると患者さんをとおして、今の日本社会が抱える問題や矛盾がよく見えるんですね。例えば皆さんが風邪でもひいて具合が悪くなったとしましょう。授業が休める、お母さんが連れていってくれる時は、普通に日中、クリニックや病院に受診できますよね。でも、試験で絶対休めない、共働きで受診に連れていってくれる人がいない、そんなとき、どうなりますか？夜間、休日の救急外来を受診することになりますよね。そういうふうにER・救急外来を受診する患者さんには、何か「わけ（事情）」があるのです。病気やケガを治療することはもちろん大事なのですが、この「わけ（事情）」が大事なんです。その「わけ（事情）」によっては、せっかく病気やケガをなおしても、また再発したり悪化してしまいます。

極 端にいうと、食べるものも、住むところもままならないホームレスの人が病気で治療をしても、結局もとの劣悪な環境に戻すと、また病気やケガをしてしまいます。だから、東葛病院のERや民医連の病院の救急外来は、受診した患者さんのその「わけ（事情）」に注意を払います。その「わけ（事情）」を解決できないか、援助することができないか、いろいろやっているんですね。その「わけ（事情）」がいま日本の社会で起きていることと直接関係しているのです。お金がない患者さんが増えていたり、ブラック企業やブラックバイトだったり、一人暮らしで行き倒れみたいな高齢者だったり・・・あげるときりがなくらいです。

も うひとつ、ERが患者さんをとおして、なぜ社会の事情がよく見えるか、わかりますか？自宅や現場から患者さんが救急車で搬送されてくると、普段どおりの姿でやってきます。これから救急車で病院に行くから、お化粧をしたり、よそ行きの服に着替えたりしませんよね。なかには、家で暮らしているのに足の裏が真っ黒だったり、

家族がいて家にお風呂があるのに、垢（あか）まみれだったり、全身傷だらけだったり。患者さんは普段のリアルな姿でやってきます。ERでいろいろ処置をして、体を拭いたり、病衣に着替えて、入院する病棟に移っていきます。入院した後だとリアルな患者の姿が見えにくくなってしまいうんですね。

と ある真冬の寒い時期に A さんが救急車で搬送されてきました。A さんは 80 才の女性でめまいで動けないと救急車を呼びました。いろいろ検査をしたら肺炎を起こしており、入院となりました。と、ここまでだったらよくあるケースで、特に「わけ（事情）」はなさそうですね。ところが、現場にかけつけた救急隊から告げられた一言が、「家の中がゴミだらけで、足の踏み場がなかったですね」つまり、「ゴミ屋敷」だということです。



A さんは入院後、肺炎の治療を行い、リハビリをしてすっかり元気に回復されました。

さあ、みなさん、ここで考えてください。

治療が終わったから退院させられますか？散らかしたのは自分の責任だから、自分で片付けてねと言えますか？残念ながら日本の医療機関は、ここで退院となります。でも、東葛病院や民医連の病院は違います。

そうです。退院の前に、ゴミ屋敷を片付けるんです。

A さんに聞いたら、これまで片付けたかったけど、どうしてもなくて困っていたそうです。スタッフとご自宅を訪問しました。この問題は患者さん本人だけでは解決できないし、病院にとっても大変大きな問題です。自治体にも協力を要請しました。当日は市の職員や町内会の会長さんも参加してくれました。A さんが住むのは、市内で一番古い団地です。家の中は、膝くらいまでゴミだらけでした。お風呂場も使えそうにありません。真冬なのに窓が開けっ放しです。ゴミのせいで閉めにいけなかったようです。台所にここで寝ていたのかな？というスペースがありました。そのそばに、ストーブがあるではないですか！本当に火事にならずによかったと思いました。こんな環境だと体調を崩して肺炎になるのも当然ですよ。



あ まりにもゴミが多いので、とても我々だけでは片付けられませんでした。幸い遠方に住む親戚の方が親切で、お金を出してくれて、業者に片付けてもらいました。その後、A さんは無事退院されました。先日 A さんが別の症状で受診されました。自宅の様子をお聞きしましたが、ゴミは貯まらず、普通の生活をされているとのことでした。認知症があって、僕のことは忘れていたようですが、無事で何よりです。

ドクター G は病気の治療やケガの手術もします。それだけでは治らない患者さんが抱える「わけ（事情）」も治そうと、日々奮闘しています。

